

番号		1		令和5年度公共事業再評価調査		担当課名 農地整備課	
事業名	畑地帯総合整備事業			事業主体	静岡県		
地区名	西浦みかん東部			関係市町	沼津市		
事業採択年度	平成25年度		計画期間	平成25年度～令和11年度			
再評価理由	事業採択(H25)後10年間の経過した時点で継続中		工事着手年度	平成26年度			
事業費 (百万円)	全体計画事業費		～R3年度	R4年度	R5年度見込	R6年度以降	
	4,400		1,913	445	353	1,689	
事業量	農道工 延長8,903m		3,290	507	430	4,676	
	用水路工 延長3,058m		1,068	301	300	1,389	
事業概要	<p>(1)事業目的 本地区は、樹園地が急峻な山間地に分布しており、農作業の効率が著しく低く、担い手農家への農地の集積・集約化が進んでいない。 このため、農道や用水路を整備し、営農の効率化を図り、作物の品質向上や担い手農家の経営規模拡大につなげる。</p> <p>(2)事業内容 受益面積 207.4ha 農道工 延長8,903m 用水路工 延長3,058m</p>						
【視点1】	<p>(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 古くから柑橘栽培が盛んな地域であり、高品質な「寿太郎みかん」の産地である。機能性表示認可やGI保護登録がなされ、高付加価値化を進めつつ、さらなる生産拡大・高品質化に取り組んでいる。令和元年度には「西浦みかん土地改良区」が設立され、援農ボランティアも増加するなど、推進及び応援体制も整い始めている。</p> <p>(2)事業の投資効果 総便益(B): 61.39億円 総費用(C): 46.98億円 総費用総便益比(B/C): 1.30 経済的内部収益率(EIRR): 6.90%</p> <p>(3)事業の進捗状況(R5年度見込) R6年度以降残事業 事業費ベース進捗率: 61.6%(2,711/4,400) 農道: 延長4,676m 事業量ベース進捗率: 49.3%(5,896/11,961) 用水路: 延長1,389m</p>						
事業の必要性等	評価	継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない					
【視点2】	<p>R4年度末時点で、幹線農道の約7割が完成(完成3,344m/全延長4,942m、完成2路線/全体4路線、約8割の用地買収が完了)、支線農道は約1割が完了。 課題は「現道幅員が狭小で現状は片押し施工」、「施工期間が収穫・出荷時期を除く期間に限定」であり、これまで年間施工量が400m程度に留まる。 今後は施工済農道等を活用し、両方向から重機搬入させて年間施工量を増加させるとともに、債務工事により継続した工事期間を確保し、令和11年度の完了を見込む。</p>						
今後の事業の進捗の見込み	評価	継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない					
【視点3】	<p>(コスト縮減について) 農道中心線を谷側へシフトし、谷側畑面に工事発生土を搬入・整地することにより、ブロック積擁壁等の構造物削減と優良農地を創設する。(6箇所計画) 併せて、建設発生土を窪地や谷側のみかん畑等の搬入し耕作土や土壌改良材として有効活用し、残土処分費の縮減と優良農地を改良、創設する。</p>						
コスト縮減・代替案立案等の可能性							
対応方針	<p>(1)対応方針 本事業を(継続)・見直し後継続・中止)する。</p> <p>(2)理由 本事業により、通作や輸送の利便性が大幅に高まり、営農の効率化が図られている。また、用水路工の整備が進むことで、防除作業の効率化が図られる。受益者からは、「整備効果が出ている」等の事業推進に期待する前向きな意見が多数出ており、今後の事業進捗が見込まれるため、事業を継続する。</p>						

費用対効果の分析資料

担当部課名 農地整備課

事業名	畑地帯総合整備事業	地区名	西浦みかん東部 (にしうらみかんとうぶ)																														
効果の算定																																	
総 便 益 額 の 内 訳	品質向上効果 農道の整備により、悪路輸送による生産物（温州みかん等）の荷痛みが防止され、品質向上の効果が発生する。 [便 益] = 390,765 千円																																
	維持管理費節減効果 農道整備により、維持管理する施設の延長や面積が増量するため、新たな維持管理費が発生する。 [便 益] = △ 3,445 千円																																
	営農に係る走行経費節減効果 農道整備により、自宅から農地、農地から出荷場への距離短縮や車両改善によって走行経費の縮減効果が発生する。 [便 益] = 4,640,853 千円																																
	営農経費節減効果 農業用水の整備による営農効率の向上等により、農作業時間の短縮効果が発生する。 [便 益] = 1,112,860 千円																																
	維持管理費節減効果 用水路の整備により、維持管理する施設の延長や面積が増量するため、新たな維持管理費が発生する。 [便 益] = △ 2,505 千円																																
	総便益	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">390,765</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">-3,445</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">4,640,853</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">1,112,860</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">-2,505</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: center;">=</td> <td style="text-align: right;">6,138,528</td> <td style="text-align: right;">千円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td></td> </tr> </table>			390,765	+	-3,445	+	4,640,853	+	1,112,860	+	-2,505	+	0	=	6,138,528	千円	0	+	0	+	0	+	0	+	0	+	0	+	0		
390,765	+	-3,445	+	4,640,853	+	1,112,860	+	-2,505	+	0	=	6,138,528	千円																				
0	+	0	+	0	+	0	+	0	+	0	+	0																					
総費用	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">①</td> <td style="width: 45%;">事業着手時の資産価額</td> <td style="width: 15%;">221,109</td> <td style="width: 10%;">千円</td> <td style="width: 25%;">(既施設の資産額を減価償却により整理)</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>当該事業費</td> <td>4,262,203</td> <td>千円</td> <td>(当該事業で整備する施設費用)</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>関連事業費</td> <td>0</td> <td>千円</td> <td>(当該事業に関連する施設の費用)</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>評価期間における再整備費</td> <td>718,663</td> <td>千円</td> <td>(工事期間+40年の評価期間内の再整備費)</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>評価期間終了時点の資産価額</td> <td>503,522</td> <td>千円</td> <td>(工事期間+40年の評価期間終了時の資産額)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">総費用=①+②+③+④-⑤</td> <td colspan="3" style="text-align: right;">4,698,453 千円</td> </tr> </table>			①	事業着手時の資産価額	221,109	千円	(既施設の資産額を減価償却により整理)	②	当該事業費	4,262,203	千円	(当該事業で整備する施設費用)	③	関連事業費	0	千円	(当該事業に関連する施設の費用)	④	評価期間における再整備費	718,663	千円	(工事期間+40年の評価期間内の再整備費)	⑤	評価期間終了時点の資産価額	503,522	千円	(工事期間+40年の評価期間終了時の資産額)	総費用=①+②+③+④-⑤		4,698,453 千円		
①	事業着手時の資産価額	221,109	千円	(既施設の資産額を減価償却により整理)																													
②	当該事業費	4,262,203	千円	(当該事業で整備する施設費用)																													
③	関連事業費	0	千円	(当該事業に関連する施設の費用)																													
④	評価期間における再整備費	718,663	千円	(工事期間+40年の評価期間内の再整備費)																													
⑤	評価期間終了時点の資産価額	503,522	千円	(工事期間+40年の評価期間終了時の資産額)																													
総費用=①+②+③+④-⑤		4,698,453 千円																															
総費用総便益比																																	
①総便益	6,138,528 千円																																
②総費用	4,698,453 千円																																
総費用総便益比 =	1.30																																

●社会情勢等の変化

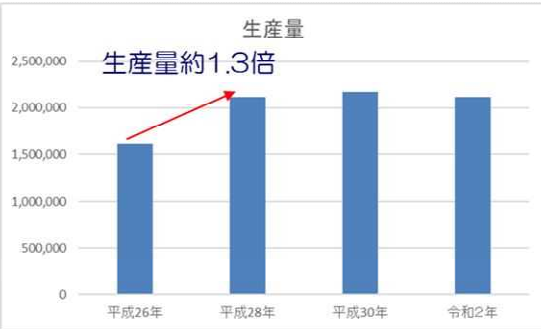
西浦柑橘共選場「光センサー式糖酸分析器導入」(H24)



「寿太郎みかん」ブランド加工品の開発

「寿太郎みかん」の機能性表示認可(H29)

「西浦みかん寿太郎」の地理的表示(GI)保護登録(R2)



近年の取引価格

「普通温州みかん」	260円/kg
「寿太郎みかん」	373円/kg
「プレミアムゴールド」	554円/kg

「西浦みかん土地改良区」設立(R2)

J A 援農ボランティア参加人数
R3年実績：延べ587名
R2年実績：延べ175名



今後の取組



●事業の必要性等(農道、農業用水)

<農道改良による走行経費節減効果>

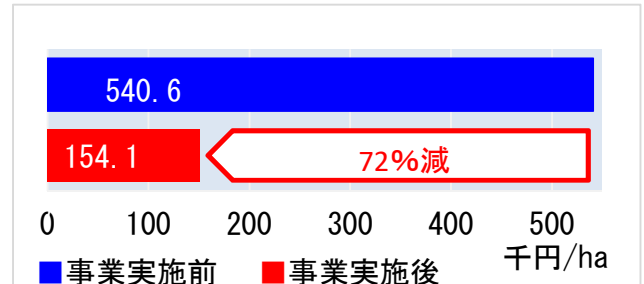
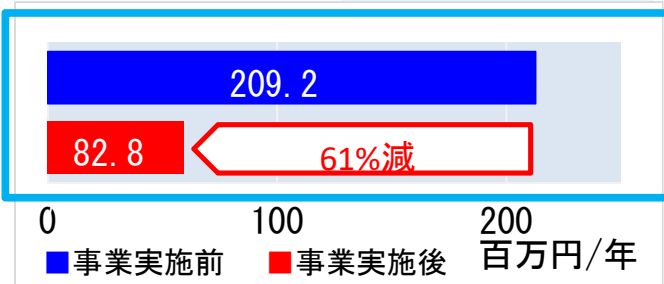
<用水新設による営農経費節減効果>



年間走行経費の減

青枠：暫定値

ha当たり営農経費の減



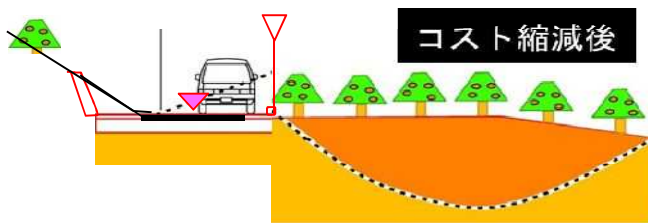
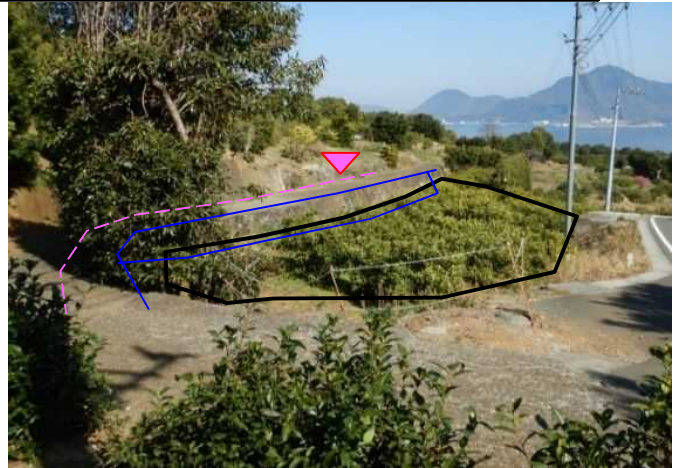
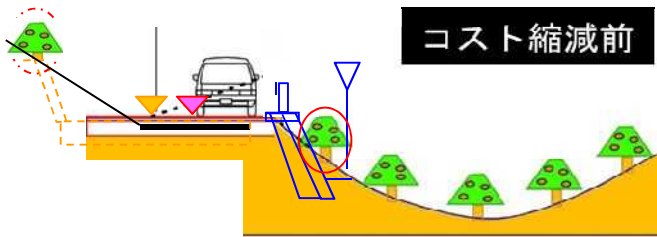
・移動時間(自宅→農地, 農地→出荷場)の短縮

・防除における作業時間の減

●コスト縮減・代替案立案等の可能性

・農道線形の見直しと優良農地の拡大【21幹道事例】

- ①農道中心線の決定に際し谷側へのシフトを選択
- ②農道を施工する谷側柑橘園の改植のタイミングに合わせ、建設発生土の搬入・圃場化と農道工事を同時施工
(効果)
 - ・山側掘削と山側農地の減少を抑制
 - ・構造物（谷側ブロック積、ガードレール）削減と用地買収補償費の縮減
 - ・建設発生土を畑の基盤土や表土として活用することにより、耕作条件の改善や優良農地が拡大し、中心経営体への集積・集約化が見込まれる。（計画：約5.4ha 実績：約2.5ha（内5筆は中心経営体農地））



6箇所計画（1箇所実施済）

【コスト縮減見込み額／約226百万円】

- ① 構造物・用地買収補償費の削減
約 71百万円の縮減 約11.9百万円/箇所×6箇所
- ② 残土処分費の削減
約155百万円の縮減 約28.8百万円×5.4ha

計 約 2 2 6 百万円のコスト縮減